

夜中の出来事



神経内科 かわかみ ひでし 川上 秀史 先生

子どもの頃、夜中の出来事で忘れられないことが2つある。1つは、突然足先に痛みが有り、目が覚めてしまったことだ。慌てて起きあがり電灯をつけると、黄色と黒のまだらなものが飛んでいった。アシナガバチだ。

なんと、夜中に部屋の中まで侵入してきて、刺していったのだ。信じられない。復讐されてしまった。

当時は田舎に住んでいて、今のようにゲームもなかったので、外で適当に遊んでいた。といっても、そんな面白いことがあるわけでもなく、遊びのひとつは『蜂の巣落とし』だった。蜂の巣といっても、ミツバチやスズメバチの大きな巣は見つけることが出来ず、たいていは家の軒先にあるアシナガバチの巣が標的だった。長い竹を調達してきて、蜂の巣をたたいて落とすのである。たたくや否や一目散に逃げるのがこつといえこつで、後からハチが落ち着いた頃を見計らって、地面に落ちた蜂の巣を回収するのだ。蜂の幼

虫はおいしいという話で、1度か2度、フライパンで炒ってもらって食べたことはあるが、ミツバチでないせいか、そんなに甘く美味しいものではなかった。引っ張り出した幼虫やサナギは、池の鯉にやると喜んで食べたので、もっぱら彼らのえさとなった。

この遊びの欠点は、落とす蜂の巣がすぐなくなってしまうことで、仕方なく長い竿を持って近所の子の家の蜂の巣も落として回った。今回は久しぶりに自宅の蜂の巣を落とすのだが、こんな目に遭うなんて。ハチの執念は恐ろしい。

川上先生は毎週水曜日午前の神経内科(パーキンソン病)外来を担当しておられます。

Doctor's Eyes